

宮津まちづくり会議（中間報告書）

■市街地における現状と課題

宮津においては、急速な少子高齢化の進展に伴い、地域経済が縮小傾向にあるとともに、人口流出による担い手不足などにより、地域の活力が低下する深刻な状況となっていると考えられます。

特に中心市街地においては、空き家・空き店舗の増加による賑わいの喪失、まちの魅力低下、商店等の後継者不足をはじめとする様々な課題を抱えており、課題解決への方向性を早急に定め、経済団体、行政、地域住民等が一体となった取り組みを進める中、丹後各地からの集客、交流人口の増加を図り、賑わいを創出していくことが重要な状況にあります。

<浜町地区>

- ・島崎公園利用の低迷
- ・宮津会館、市民体育館などの施設利用の低迷、施設相互の連携不足
- ・天橋立を望む、美しい海の活用不足・発信不足 など

<大手川、既存商業地区(本町、中町、新浜など)>

- ・空き店舗増加による商店街としての活力低下
- ・商店等の後継者不足
- ・大手川の活用不足 など

<駅前地区>

- ・まちの玄関口としての賑わい不足
- ・浜町～駅前間の利便性の向上 など

<歴史的地区(寺町、漁師町など)>

- ・歴史的街並みの魅力向上・発信不足
- ・他地区との連携不足 など

■課題解決に向けた方向性

中心市街地の現状を踏まえて、課題を解決し、まちの魅力の向上を図るためには、地域が有する歴史と文化に培われた大切な資源を見直し、新たな魅力を加えながら効果的に活用することで、賑わいを創出していくことが重要であると考えられます。

まちづくり会議においては、新たなまちづくりの方向性を

『地域資源を活用し、人が集い行き交う、賑わいのある場所づくり』

と定めて、宮津の中心市街地を

- ① 北前船が行き交う城下町・宮津の栄華を現代に伝える豊かな町並み、また受け継がれる貴重な伝統、コミュニティを活かし、暮らす人々、集う人々にも魅力的な場所にする
- ② 山海の食材を活かした商業の活性化を図り、地域経済の循環を生み出す場所とする
- ③ 海路と陸路の結節点という地理的条件を活かし、丹後地域の中核都市としての機能を再構築し、さらには日本海側観光の要衝としての機能をもつ場所にする

ことを目指して、取組を進めてまいります。

■各地区における現状と取組みの方向性

<浜町地区（公園・海辺・商業ゾーン）>

i) 地区の現状

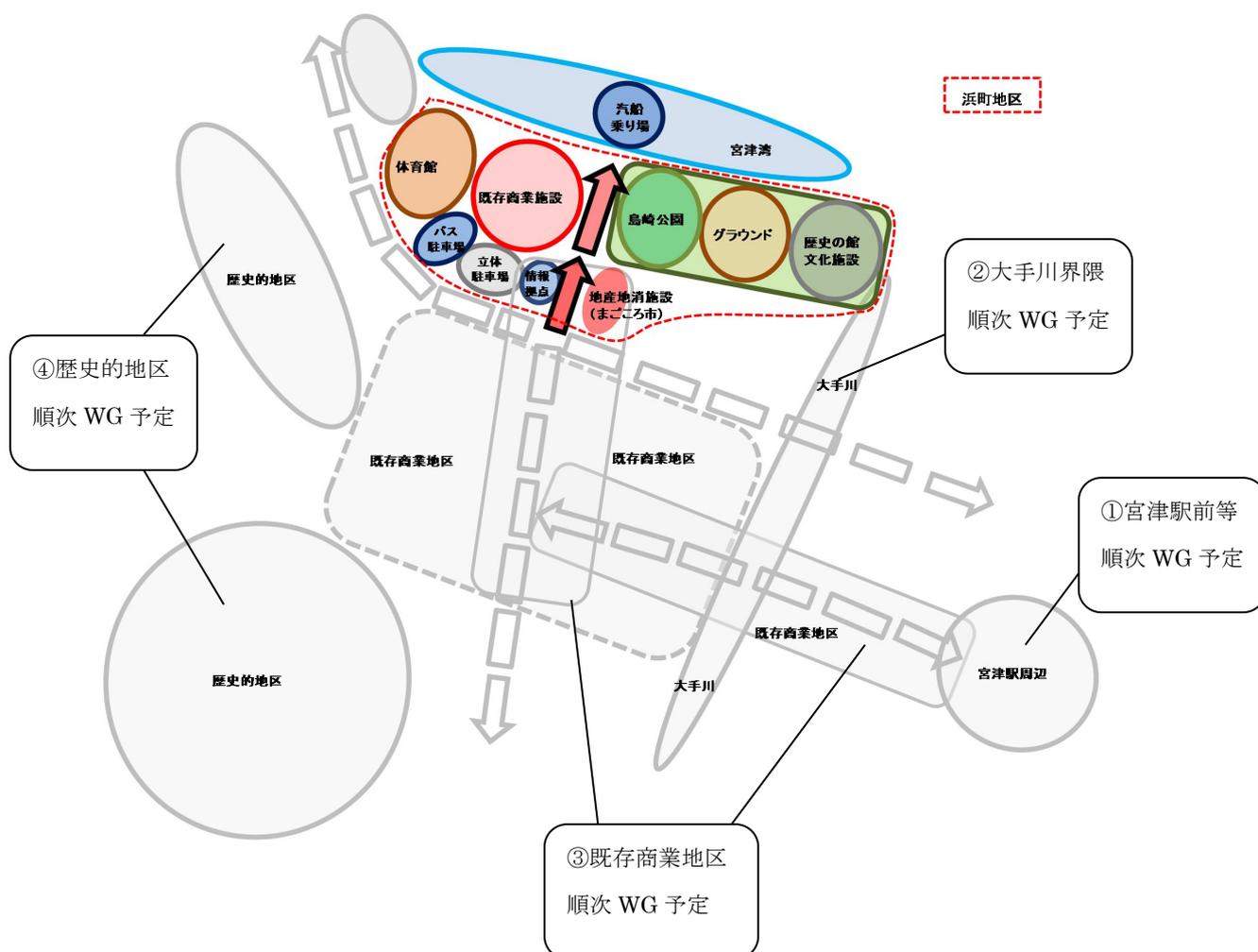
浜町地区は海辺に位置する利便性の高い地区であり、宮津会館、歴史の館や図書館、福祉関係施設、体育館、地産地消施設など、様々な施設が集積する集客拠点となっています。

しかし、既存施設の利用が伸び悩むとともに、海を身近に感じることができない環境にあるため、海の魅力を最大限に活かしながら、地域住民をはじめ全国から人が集まる賑わいのある場所づくりを進める必要があります。

ii) 取組みの考え方

海辺に位置する浜町地区は、天橋立等への玄関口としての交通拠点の役割を担うとともに、海の魅力を活かしたスポーツをはじめ、宮津の歴史や文化、海産物や農産物等の地域資源を体感するゾーンとして、市民が家族とともに、1日中楽しく過ごすことができる場所を目指すとともに、市内外に向けて宮津の魅力を発信していく中心となるゾーンであると考えています。

- ① 中心市街地の軸として、市街地全体の活力を生み出す源泉となること。
- ② 公園、海、既存施設のより緊密な連携のもとで、地区の魅力向上を図り、市民、近隣住民の人々の生活拠点となること。
- ③ 経済活動の拠点として、市内外へその効果を波及すること。



■今後のワーキングの展開

- ①宮津駅及びその周辺（宮津の顔・宮津駅及び周辺をどう整備するか？）
- ②大手川界限（大手川は中心市街地の魅力としてどう活用するか？）
- ③既存商業地区（中心市街地の商業は今後どのような展望が可能か？）
- ④歴史的地区（市内に散在する歴史施設・地区をどう活用するか？）

また、市街地の取組みを推進する体制のあり方についても、併せて検討を予定しております。

浜町地区の賑わいづくりに向けた意見

(浜町及び浜町地区周辺のまちづくりにおける目指すべき方向性)

地域資源を活用し、人が集い行き交う、賑わいのある場所づくり

(浜町地区の理想像)

家族みんなが1日ゆっくり楽しみ、5感で宮津を味わうことができるエリアの構築

人を集める仕掛けづくり

地域に還元させる仕掛けづくり

～誰もが気軽に憩える場所づくり～

<公園ゾーン>

- ①海を感じながら、遊び、憩える場所
- ②見晴らしの良い空間づくり(雑木や死角になる低木の伐採、治安維持、モニュメントの移設など)
- ③松並木やフットライトで遊歩道の魅力の向上
- ④芝生スペースの充実や大きな遊具等の整備(日本庭園部分を用途変更)
- ⑤ベンチの増設(高校生手作りベンチなど)
- ⑥海を活かしたの景観形成



～海を感じる(砂浜を思い出させる)場所づくり～

<海辺ゾーン>

- ⑦地元の魚介類や野菜などが味わえるBBQ広場の整備
→魚の捌き方やシェフによる料理教室など、地元資源の学習・体験の場としても活用可能な海辺の全天候型交流施設
- ⑧親水施設の設置(タッチングプールなど)
- ⑨浜町交差点から見える位置に宮津棧橋を移設
- ⑩海を眺めるスポットの整備、汽船の活用(海上レストランなど)
- ⑪浜町～天橋立間を気持ちよく歩ける海を眺める遊歩道やサイクリングロードの機能強化、地場産品を活用した店舗の誘致



心地よいオープンスペースの確保

～宮津の旬・ぜいたくを味わう場所づくり～

- ①地域資源(海産物、農産物)などのブランド化促進
- ②地元の漁業者、生産農家等による6次産業化
- ③地域事業者の新規ビジネスの創出
- ④市民のための安心安全な地元食材の提供～地産地消の推進
- ⑤新規開発商品の発信
- ⑥交流人口の増加、地域間交流の促進

⇒具体には、次頁のとおり

賑わい・交流の場の形成

～地域住民がともに育ち合える場所づくり～

<スポーツゾーン>

- ①多くの地域住民が触れ合えるスポーツや健康づくりイベントの誘致・開催
- ②ヨガ、エアロビ、キッズ体操など気軽に健康づくりができるスポーツスペースの拡充(クラブハウスの設置など)
- ③穏やかな宮津湾を活用したマリンスポーツの展開(釣り、カヤックなど)



<子育てゾーン>

- ④ベップキッズガーデンの機能の常設化
- ⑤子どもが安全で遊べるスペースの確保
- ⑥ショッピングや図書館との複合化



交流・体験の場の形成

ヒト(集う人)
カネ(消費)
モノ(商材・情報)
の循環

機能の複合化
複合イベントの誘致・開催

～宮津の学びの場所づくり～

<図書館>

- ①オシャレな佇まいで、天橋立、宮津湾を眺めながら、本が読めたり、お茶したり、老若男女問わず集まれる場所へのリニューアル(Book&Caféなど)
- ②ショッピングや子育てゾーンとの複合化
- ③蔵書の拡大



<みやづ歴史の館・宮津会館>

- ①会議・コンサートの誘致・開催(コンベンション機能の強化)
- ②宮津市歴史資料館の開放
- ③天橋立が一望できる喫茶スペースの常設
- ④専用駐車場の確保



ヒト(集う人)・カネ(消費)・モノ(商材・情報)を既存市街地・天橋立など市内各所へ波及

～京阪神・丹後各地への交通拠点～

- ①市街地の交通拠点としてのバスターミナル化(路線・高速バスの発着点)
- ②浜町～宮津駅の連携強化(KTR、路線バス、小型モビリティ、レンタサイクルなど)
- ③浜町～阿蘇海・文珠・府中・伊根等とつなぐ海上交通の強化(漁船タクシーの導入、海から陸を眺めるスポットの紹介など)

～全国各地への情報発信～

- ①宮津の歴史、近隣の食、遊びまで網羅した情報発信基地(施設クーポン券の発行など)
- ②地産都商の発信基地
- ③海の京都エリア全体の情報発信基地(観光面)
- ④テレビ番組や映画ロケ地の誘致(フィルムコミッションの整備など)

浜町の取組を発展させる基盤の強化

「宮津の旬・ぜいたくを味わう場所づくり」に関する事業者の意見

【丹後の海と大地から直送（ブランド化・6次産業化促進）】



- 商品切れをおこさない集荷システムの確立 (例: 行き/地域の注文を聞き配達、帰り/生産者の野菜を集荷)
- 産地ごとの集荷時間設定 (例: 午前/宮津地域、午後/橋北地域など)
- 不足する商材は近隣から供給 (例: 果物は京丹後から供給)

【売れるしくみづくり・人材育成】

- <キーマン(プロデューサー)を中心とした>**
- ①店舗コンセプトの明確化
 - ②事業戦略の構築
 - ③開発(生産)・販売指導
 - ④商材選別(目利き)
 - ⑤新商品開発
 - ⑥後継者の育成(人材育成)
- <戦略的なPR>**
- ①店舗情報サイト、商品撮影アプリ、Facebook等のSNS
 - ②販促イベントの開催(旬の食材イベントなど)
 - ③メディア対策(TV、新聞、雑誌など)

産直食材の提携・発注・配達

海の京都の台所(地域経済が循環・発展するしくみづくり~地域振興拠点~)

【具体的な機能(ここにしかないオンリー1を創造し、ぜいたくを味わうサービスを提供)】

- 宮津産を中心に丹後エリアの旬の食材を提供
- 産地直送の「農産物」に加えて、「海の幸(活魚、鮮魚など)」を総合プロデュース(仕入、販売、料理、加工)
- 「買う」と「食べる」「体験する」が一体となった旬の魅力の相乗効果
- 食材の新たな活用を発見し、売れる製品としてリメイク

【旬を広める・持ち帰る(農産物・水産物等の6次産業化拠点)】

【店作り・商材の並べ方・販売演出】

- ①対面販売・高級食材の提供(デパ地下イメージ)
- ②入荷情報の案内(いづれから入荷するかという情報)
- ③鍋の材料などレシピに沿った食材展示(消費者目線の展示)
- ④生産者・漁業者の顔が見える商品表示(品質・鮮度保証)
- ⑤調理方法や食材の選び方をアドバイスできる店員の配置
- ⑥貯蔵方法や地元ならではの調理の紹介(POP広告など)
- ⑦試食コーナーの設置
- ⑧品質管理の徹底(冷蔵庫・貯蔵庫の設置)



<農産物>

- ⑨プレミアム野菜の販売(京野菜、宮津産ブランド野菜~ストーリー性を付加)
- ⑩コンテナ販売(ポリウムUP)
- ⑪規格外奉仕品販売(ラッキーアイテム)
- ⑫特Aつやつ娘米のおにぎりコーナー(具も宮津産)
- ⑬カテゴリ別販売(エコファーマー作物、奉仕品など)
- ⑭家庭菜園者と生産農家の区別などによる価格設定のルール化

<水産物>

- ⑮雑魚や珍魚(ヤガラなど)の付加価値化(メニュー開発、加工品化)
- ⑯鮮魚、活魚の提供(生け簀の設置など)
- ⑰トリガイやハマグリなど二枚貝の提供(生け簀の設置など)
- ⑱天日干しできたて販売

有効活用からブランド化へ

【旬を無駄なく活用】 (有効利用・交流の促進)

- ①直売所の野菜、魚の活用
- ②規格外の野菜、魚の収集販売機能
- ③売れ残りの食材の収集販売機能(低価格での売買) → 飲食店、加工品へ



【五感で楽しむ】 ~定期イベントの開催~

- ・漁船販売・漁船体験ツアー
- ・出荷元(生産者)訪問ツアー
- ・活魚1匹売りイベント
- ・炭火・七輪焼き、炉端焼き実演販売
- ・野菜・鮮魚・牡蠣等のつめ放題
- ・ちくわづくり体験(ちくわ加工機械を活用したイベント)
- ・さばき方教室
- ・シェフによる旬の食材・料理教室
- ・食育プログラム

「味わう」「持ち帰る」の相乗効果

【旬を味わう・安心安全な地元食材の発信】 (グルメ・レストラン~地産地消推進拠点~)

【店作り】

- ①イートバイ方式の導入(買って食べるor食べて買える(寿司、丼、干物、貝類など))
- ②バイクの導入(各店舗連携バイク(一品提供など))
- ③BBQ施設や牡蠣小屋等の整備(閑散期は料理教室、体験施設として利用)
- ④外での飲食スペースの設置(海を見ながらの食事、テント・イスの設置)
- ⑤早朝・夜の営業(ニーズに応じた営業時間の設定など)



【料理・メニューの提供方法】

- ⑥生け簀の設置(釣り→そのまま料理として提供)
- ⑦ご当地メニューグルメ
- ⑧旬の食材の食べ放題
- ⑨地元ならではの魚メインの朝食を提供
- ⑩女性向けのオシャレな盛り付け
- ⑪食事後に無料のお土産の提供



【旬をリメイク(新規開発商品の発信拠点等)】

- ①新規ビジネスの創出
- ②地域資源を活用した加工品等の開発
- ③料理レシピ、レストランメニューの開発
- ④料理教室の開催(コミュニティの創出/ガラス張りの調理場(オープンキッチン)など)
- ⑤チャレンジショップ(若手育成→一定期間は市街地にて店舗運営)



消費者ニーズを捉えた商品開発

地産都商へ



賑わい創出(集客)

- ①情報発信・交通拠点の強化
- ②海を感じる・誰もが気軽に憩える場所づくり
- ③地域住民がともに育ちあえる場所づくり
- ④宮津の学びの場所づくり

※周辺まちづくりワークショップアイデア

市街地(商店街)の飲食店との連携イベントの実施(市街地との回遊性)

- ①宮津産の農水産物を扱った共通昼食メニュー(期間限定:プリ週間、ちくわ週間など)
- ②市街地の各飲食店舗連携バイク(一品提供など)
- ③まちなかパルの開催
- ④食べ歩きマップの作成

今後の各ワーキングの予定

【浜町及び浜町周辺まちづくりワーキング】

…民間活力を積極的に行える個人・事業者

○ 浜町地区の活性化に向けた戦略

○ 各地区の活性化に向けた戦略及び各地区間の利便性、回遊性の検討

○ 浜町地区及び浜町周辺全域の検討状況のまとめ

○ 具体項目の事業化検討・実施
① 市民参加型のフィールドワーク（事業ごとのワーキングの創設）
② イベントの企画
③ 空き店舗の活用 など

○ 市街地の取組みを推進する体制のあり方の検討

【浜町商業ワーキング】

…商業の担い手となり得る事業者

○ 集客・地域振興拠点形成の目的の検討
○ 実現への課題と戦略・コンテンツの検討

○ 地域振興拠点の実現に向けた検討（中間報告の深堀、オンリー1の魅力づくり）

○ 実証実験の実施（コンテンツ可能性調査、消費者ニーズ調査 など）

○ 運営体制の検討
○ 具体事業の検討 など

○ 事業基本計画の策定

○ 事業実施計画の策定

キーマンの参画

【キーマン募集の方向性】

- ① 宮津への志や想いが強い方、情熱のある方
- ② 魅力あるアイデアを市場動向を捉えて企画・立案、実現し、長期にわたり、施設を維持・発展できる方
- ③ マーケティングなどの経験を有し、宮津の魅力を効果的に全国発信できる方 など